

秘

協議案

一、寺院佛堂國有境内地ニ関スル件

(1) 明治初年ノ上地處分並地租改正ニ依ル官民有

區分

明治維新ニ方リ寺領ハ公領ノ一種ナリトノ觀念ノ

下ニ政府ハ明治四年正月太政官布告ニ依リ上地ヲ

命シタレトモ境内ヲ除外シタリ然ルニ所謂境内ノ

範圍不明確ナリシカハ明治四年上月太政官達明治

八年六月地租改正事務局達ヲ以テ境内外ノ區分ヲ

為シ境外ト認定セラレタル部分ヲ上地セシメ新ニ

決定シタル境内ハ上地處分ヨリ除外シタリ恰モ當

時政府ハ明治六年七月太政官布告第一七二號ヲ以

(昭和三〇、四、二〇) (1)

テ地租改正條例ヲ制定シ全國一億二千萬筆ニ亘リ
各筆毎ニ土地所有者ノ確認面積ノ測定地價ノ決定
ヲ行ヒ之ヲ地券ニ記入交付シタルカ此ノ際ニ於テ
寺院佛堂ニ於テ所有ノ事實ヲ證明スル能ハサ
リシ境内地ハ地所屬今假規則ハ明治八年七月地租
改正事務局議定ニ依リ官有地ニ編入セラレタル
モノナリ而シテ此ノ部分カ今日ニ於ケル國有境内
地ノ主ナルモノナリ即チ明治初年ニ於テ境外地ハ
之ヲ上地ヤシメタルモ境内地ハ依然占有ヲ許シタ
ルモノニシテ只明治六年以降明治八年ニ亘ツテ地
租ノ改正ヲ為スニ當リ官有地ニハ地租ヲ課セサル
モ民有地ニハ地租ヲ課スルノ必要アルヲ以テ官民
有區分ヲ為シタル際民有タルノ證明ヲ為シ得ザリ

シ寺院佛堂境内地ハ之ヲ官有地ニ編入シタルモノ
ナリ

(2) 國有土地森林原野下戻法ノ制定並行政裁判所ノ

判例

斯ノ如クニシテ土地ニ關スル官民有區分ハ一應是
マリタルモ當時所有又ハ分收ノ事實アルニ拘ラス
官有地ニ編入處分シタルモノナキニシテ非サレテ
以テ之カ救済ノ為政府ハ明治三十二年四月國有土
地森林原野下戻法ヲ制定シ所有又ハ分收ノ事實ア
ルニ不拘國有地ニ編入セラレタルモノハ明治三十
三年六月三十日迄ニ下戻ノ申請ヲ為サシムルコト
トシ尚其ノ下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタ
ル者カ其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出

訴スルコトヲ得シメタリ依テ寺院例ニ於テ同法ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタル者尠カラス之ニ對シ行政裁判所ハ當初所謂御朱印地除地ハ諸役租稅ヲ免除セラレタルモノニシテ之ノミヲ以テ私有ヲ證明スルモノニ非スト判示シタルモ明治四十三年二月以來其ノ判例ヲ改メ御朱印地除地ハ共ニ租稅ヲ免除セラレタルモノニシテ租稅ノ免除無カリセハ當然租稅ヲ負擔スヘキ土地ナレハ反對ノ證據無キ限リ之ノミヲ以テ所有ヲ證明スルモノナリト判示シタリ

(3)

社寺佛堂境内地使用取締規則及寺院佛堂固有境内地ニ關スル國有財産法ノ制定
上述ノ如ク寺院佛堂境内地ニシテ地租改正ニ依リ

官有ニ編入セラレ國有土地森林原野下戻法ニ依リ下戻ヲ受ケサリシモノハ國有境内地トシテ寺院佛堂ヲシテ無償占有セシメ寺院佛堂ニ於テ其ノ境内地ノ一部ヲ住宅等トシテ賃貸セルモノニ付テハ其ノ賃貸料ヲ寺院佛堂ノ維持修理費ニ充ツルコトヲ認可シタリシモ明治三十六年十一月内務省令ヲ以テ社寺佛堂境内地使用取締規則ヲ制定シ境内地ハ一、一時間リノ使用 二、參詣人休息所等其使用一箇年以内ニ止マルモノ 三、公益ノ為ニスル使用ノ外其ノ寺院佛堂以外ノモノニ於テ之ヲ使用スルコトヲ禁シタリ（同規則ハ大正二年四月寺院佛堂境内地使用取締規則ト改正同年六月寺院佛堂ニ關スル監督権ハ内務省ヨリ文部省ニ移管セラレタリ）

(3)

次ニ政府ハ大正十一年四月國有財産法ヲ制定施行
 シタルカ同法ニ依レハ國有地ニ編入セラレタル寺
 院佛堂境内地ハ總テ當該寺院佛堂ニ其ノ用ニ供ス
 ル間無償ニテ貸付シタルモノト看做サレ其ノ使用
 收益ニ付テハ寺院佛堂境内地使用取締規則其ノ他
 主務大臣ノ定ムル處ニ依ルヘキコトナレリ然ル
 ニ寺院佛堂ニ於テハ其ノ經濟上ノ都合等ニ依リ右
 境内地使用取締規則ニ違反シ境内地ノ一部ヲ住宅
 商店等ノ敷地トシテ他ニ賃貸セルモノ尠カラズ國
 有財産整理ノ見地ヨリ~~難~~過スヘカラサル問題ナリ
 二、寺院佛堂國有境内地ニ關スル寺院側ノ主張
 翻ツテ寺院佛堂ニ於テハ從來寺院佛堂境内地ハ全部
 之ヲ寺院佛堂ヘ無償下付セラレンコトヲ希望セルカ

其ノ主張スル處大体左ノ如シ
 一、明治四年正月公布セラレタル太政官布告ハ明カニ
 境内地ヲ除キ其ノ他ノ土地ノ上知ヲ命シタルモノ
 ニシテ境内地ニ付テハ上知ヲ命シタルモノニ在ラ
 ス然ルニ社寺境内外區別調査ニ依リ從來ノ境内ニ
 對シ任意ノ區域ヲ劃シ境内地ノ大部分ヲ官設シタ
 ルハ社寺上知令ノ趣旨ニ背戾スルモノナリ又明治
 卅二年法律第九十九號土地森林原野下戻法發布ニ
 ヨリ不當上地ノ救済ヲ得ントレタルモ社寺境内ハ
 原則トシテ國有ナリトノ前提ニ於テ未、黒印除地
 等ノ如キ年貢諸役ノ免除ハ領地權設定ノ効果ナレ
 ハ社寺カ境内ニ對スル關係ハ管理關係ニシテ所有
 關係ニアラストシテ寺院ノ申請ニ對シ下戻シタル

モノ極メテ僅少ナリ然レトモ寺院境内ハ太政官符、
制札、下知狀、朱、黒印狀又ハ判物ヲ以テ一般寺領ニ
對スル租稅收納權ト共ニ境内山林ノ租稅ヲ免除セ
ラルルト同時ニ其ノ寺院ノ所有權ヲ確保セラレシ
ルモノナリ即チ寺院ノ境内ニ對スル權利關係ハ私
有關係ニシテ諸侯カ領土ニ對スル公領關係ト全然
實質ヲ異ニスルニ拘ラス恰モ諸侯ト同一視シ寺院
カ境内山林ニ對スル植伐賣買等ノ行為ヲ以テ總テ
管理行為ナリト者做シシルハ法律ノ趣旨ニ反スル
モノナリ殊ニ明治四十二年、四十二年ニ亘リ行政裁
判所カ延曆寺、増上寺、西明寺、神野寺、飯福寺、石山寺ニ
對シ勝訴ノ判決ヲ下シタル宣告書ヲ見ルニ寺院カ
境内地ニ對スル關係ハ私有關係ナルカ故ニ朱印又

ハ判物ヲ以テ其ノ租稅ヲ免除セラレタルモノナリ
若シ此ノ免除ノ特典ナカリセハ當然租稅ヲ上納ス
ヘカリシ土地ナルヲ以テ寺院境内ハ私有地ナリト
判決セラレタリ假リニ境内地ハ固有ナリトスルモ
凡テ寺院ハ古來ヨリ之ヲ自己所有地ナリト信シテ
維持管理シ來リタルモノニ付當然寺院ニ無償ニテ
下付シ宗教教化ノ職能ヲ保護助長スヘキモノナリ
三、寺院佛堂固有境内地無償下付ニ關スル帝國議會ノ審
議經過

寺院佛堂固有境内地無償下付ニ關スル問題ニ付テハ
明治四十三年以來大正十五年ニ至ル迄帝國議會ニ於
テ審議セラレ寺院側ヨリ寺院佛堂境内地還付ノ法律
制定ノ請願七回及寺院佛堂境内地無償下付ニ關スル

衆議院議員提出法律案七回衆議院ヲ通過シ又貴族院
ニ於テハ同趣旨ノ請願ニ回通過シタルモ政府ハ常ニ
寺院ノ財産管理ノ方法カ備ハルニ於テハ宗教教化ノ
職能ヲ保護助長セムトスル精神ニ鑑ミ必要ナル範圍
ニ於テ適當ニ解決スヘキ旨聲明シ右衆議院議員提出
法律案ハ常ニ貴族院ニ於テ審議未了トナリタルモノ
ナリ依テ政府ハ昭和九年某五十二回帝國議會ニ寺院
等國有境内地處分ニ關スル規定ヲ宗教法案中ノ條項
トシテ又昭和三年某五十六回帝國議會ニハ寺院等ノ
國有境内地處分ニ關スル法律案ヲ宗教團體法案ト共
ニ帝國議會ニ提出シ寺院佛堂國有境内地ハ大体祭典
法要ニ必要ナル範圍ニテ之ヲ讓與シ其ノ他ハ時價ノ
半額ニテ當該寺院佛堂ニ賣拂ハントシタルカ宗教法

案又ハ宗教團體法案カ貴族院ニ於テ審議未了トナリ
タル為寺院佛堂國有境内地處分ノ問題モ亦未解決ノ
状態ニアリ
他方寺院側ニ於テハ其ノ後モ屢々前記趣旨ノ請願ヲ
兩院ニ提出シ又前記趣旨ノ衆議院議員提出ノ法律案
モ屢々衆議院ノ議ニ上リ今日ニ及ヘリ
四目的外使用境内地等ノ整理處分策
斯ノ如ク寺院佛堂國有境内地ノ處分ニ關スル問題ハ
未タニ未解決トナリ居レルモ寺院佛堂ノ國有境内地
ハ寺院佛堂ヲシテ其ノ境内地ニ供セシムル為無期限
ヲ以テ貸付セラレアルニ拘ラス之ヲ其ノ本來ノ目的
以外ノ用途ニ供セルモノ夥カラス又其ノ境内地ニシ
テ鐵道又ハ道路ノ開通等ノ為飛地ヲ生セルモノアリ

此等ノ境内地ハ國有財産法ノ解釋上國ニ於テ回收ス
ヘキモノナルモ寺院側ニ於テハ從來ノ沿革ニ鑑ミ極
メテ安價ヲ以テ賣拂ヲ要求シ來レルヲ以テ讓與スヘ
キモノト切離シ之等目的外供用地等ニ關シ昭和六年
一月國有財産調査會ノ決議ヲ經テ該地ヲ當該寺院佛
堂ニ時價ノ半額ヲ以テ賣拂ハントスル趣旨ノ法律案
ヲ閣議ニ提出シタルモ寺院側ハ該法律案ニ讓與ニ關
スル規定無キヲ理由トシテ之ニ反對シタルヲ以テ遂
ニ閣議決定ニ至ラザリキ其ノ後昭和八年宗教團體法
ト切離シ寺院財産管理規定ヲ制定スルト共ニ寺院佛堂
境内地ヲ一定ノ條件ノ下ニ當該寺院佛堂ニ讓與又ハ
賣拂ノ處分ヲ為スノ法律制定方ニ付關係當局ニ於テ
審議中寺院側ノ一部ニ於テ種々ノ事情ヨリ之ニ反對

スル者有リテ一頓挫ヲ來セリ然レトモ目的外供用地ノ
境内地等ニ付宗教團體法又ハ寺院佛堂國有境内地整
理ニ關スル法律ノ制定セラレサルヲ理由トシテ此儘
放任シ置クハ國有財産整理ノ趣旨ニ反スルヲ以テ原
狀回復ノ上境内地本來ノ用ニ供セシムルト共ニ原狀
回復ノ不可能ナルモノ又ハ境内地トシテ存置ノ必要
ナキモノト認メラルモノハ速ニ境内地ヨリ除却整
理スヘキモノナリ然レトモ寺院側ニ於テハ境内地目
的外供用地カ寺院佛堂ノ經濟上必要ニ付得ザリテ事
情ヲ速ニ宗教團體法等ノ制定セララル迄之ヲ急激ニ
整理處分ヲ延期セラレ度キ旨屢々陳情セリ
惟フニ前述ノ如キ寺院佛堂國有境内地ノ沿革等ニ徴
シ寺院佛堂ハ其ノ國有境内地目的外供用地等ニ付特

別ノ縁故ヲ有スト認メラルル而已ナラス該地ニ付國
ノ有スル所有權ノ價格ハ所謂更地價格(地形状面積
等ニキ普通通上)ニ比シ相當低廉ナリト認メラルルカ
故ニ該地ヲ當該寺院佛堂ニ對シ前記所有權價格ニテ
賣拂ヒ以テ之ヲ境内地ヨリ除却整理スルヲ機宜ノ處
過ナリト認ム
即チ左記事由ニ因リ寺院佛堂ハ其ノ國有境内地目的
外使用地等ニ付特別ノ縁故ヲ有スト認メ又該地ニ付
國ノ有スル所有權ノ價格ハ所謂更地價格ノ半額ナリ
ト評定シ該評定價格ヲ以テ當該寺院佛堂ニ對シ隨意
契約ニ依リ賣拂ハントス
追テ既ニ除却済ニ係ル境内地ヲ當該寺院佛堂ニ賣
拂フ場合ニ付テモ同一ニ取扱ハントス

註

第一、寺院佛堂ハ其ノ國有境内地目的外使用地等ニ付
特別ノ縁故ヲ有スト認ムル事由
前述ノ如ク明治初年寺領地ハ境内地ヲ除ク外上地處
分ヲ受ケ境内地ニ付テハ地租改正ニ依リ民有ノ護十
キモノハ官有地ニ編入セラレタルカ依然寺院佛堂ヲ
シテ無償占有セシメタルヲ以テ寺院佛堂ハ明治初年
以來数十年ノ久シキニ亘リ之カ維持管理ニ努メ來レ
ルモノナリ而シテ當初ハ寺院佛堂ニ於テ其ノ境内地
ノ一部ヲ他ニ賃貸シ其ノ賃貸料ヲ寺院佛堂ノ維持修
理費ニ充ツルコトヲ認可セラレタリシカ其ノ後明治
三十六年十一月社寺佛堂境内地使用取締規則制定セ
ラレ境内地ノ使用ニ付嚴格ナル制限ヲ付セラレタル

モ該規定ノ施行ハ困難ナリキ次テ大正十一年四月制定セラレタル國有財産法ニ依レハ右取締規則ニ違反スル所謂目的外使用境内地ハ當該寺院佛堂ニ貸付シタルモノト看做スコトヲ得スト雖モ之カ回收整理ハ頗ル困難ニシテ今日ニ至レリ
他方寺院佛堂ニ於テハ行政裁判所ノ判例等ヲ援用シ寺院佛堂境内地ハ本來自己ノ所有タルヘキモノナリシコトヲ主張シ全部之カ無償交付方ヲ希望シ居レリ
以上ノ諸事情ヲ彼此勘案スルニ寺院佛堂ハ其ノ國有境内地目的外使用地等ニ付特別緣故ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得
尚從來政府ヨリ提出シタル寺院佛堂國有境内地處今

ニ関スル法律案ニ於テ寺院佛堂國有境内地中所謂目的外使用境内地等ヲ當該寺院佛堂ニ隨意契約ニ依リ賣拂ヒ得ルコトヲ規定セルハ寺院佛堂ガ該地ニ付特別ノ緣故ヲ有スト認メタルカシメナリ
第一 前記目的外使用地等ニ付國有スル所有權ノ行使ヲ所謂更地価格(該地普通土地ノ形面積相等ノ半額ト評定スル事由)ニ依リ所謂目的外使用地等ヲ當該寺院佛堂ニ賣拂フニ當リ其ノ賣拂価格即チ國有スル所有權行使評定ニ關シ參酌スヘキ矣概テ左ノ如シ
(1) 前述ノ如ク寺院佛堂ハ明治初年以來國有境内地ノ維持管理ニ當リ國有財産法上無償無期限ノ使用權ヲ有シ從來國有境内地ヲ鐵道用地又ハ道路用地

トシテ管理換スル場合ニ於テ其ノ使用権ノ価格ハ
 時価ノ六割又ハ十割程度ト認メ居ルヲ以テ國ノ有
 スル所有権ノ価格ハ時価ノ四割又ハ零割程度ニ過
 キス所謂目的外使用地等ニ付テハ之ト同一ニ論ス
 ルコトヲ得サルヘシト雖モ前述シタルカ如キ寺院
 佛堂國有境内地ノ沿革等ニ鑑ミ寺院佛堂ニ對シ多
 少ノ使用権ヲ認ムルハ止ムヲ得サルヘシ
 (一) 目的外使用ヲ取テセル寺院佛堂ハ之ニ因ル収益
 ヲ寺院佛堂ノ維持修理費ニ充當シツツアリ
 (二) 前述ノ如ク寺院側ニ於テハ寺院佛堂國有境内地
 ハ其來自己ノ所有地シルヘカリシモノト主張シ全
 部無償交付方ヲ希望シ居レリ
 (三) 從來政府ヨリ提案シタル寺院佛堂國有境内地處

分ニ開スル法律案ニ於テ目的外使用地等ハ時価ノ
 半額ヲ以テ賣拂フコトヲ規定セルヲ以テ若シ其ノ
 賣拂価格ヲ時価ノ半額以上トセンカ寺院側ニ於テ
 ハ右法律ノ制定迄買受方ヲ躊躇スヘシ現ニ寺院側
 ニ於テハ右法律制定迄目的外使用境内地等ノ急激
 ナル整理處分方ヲ延期セラレ度旨陳情シ居レリ
 (木) 寺院佛堂境内地ハ其ノ性質上住宅敷地等トシテ
 一般ニ嫌忌セラルル傾アリ
 (ハ) 國有地タル公園ノ目的外使用地ヲ從來ノ管理者
 タル公共團體ニ賣拂セタル場合ニ於テ其ノ賣拂價
 格ハ時価ノ一割乃至三割五分トナシタリ即チ國ノ
 有スル所有権ノ価格ハ時価ノ一割乃至三割五分ト
 見タルモノナリ

以上ノ諸矣ヲ彼此勘案スルニ其ノ賣拂価格即チ國ノ
有スル所有權ノ價格ヲ所謂更地價格ノ半額ト評定ス
ルハ已ムヲ得サルモノト認ム尚賣拂ニ當リテハ該土
地ノ管理處分ニ依ル收益ハ全部之ヲ寺院佛堂ノ維持
修理費ニ充ツヘキ條件ヲ附セントス

戰事一集

(昭和 一六 一九)

寺院等ノ國有境內地處分ニ關スル法律案

第一條 本法施行ノ際現ニ寺院又ハ佛堂ニ無償ニテ貸付シアル國有財產
ハ寺院ニ在リテハ本法施行後二年內ニ佛堂ニ在リテハ宗教團體法第八
十一條ノ規定ニ依リテ其ノ佛堂ガ一定ノ寺院ニ屬シ又ハ寺院若ハ法人
タル教會ト爲リタル場合ニ於テ本法施行後三年內ニ申請シタルトキハ
寺院境內地處分審査會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ當該寺院又ハ教會ニ讓
與ス

前項ノ規定ニ依リテ讓與ヲ爲スベキ國有財產ノ範圍及讓與ノ條件ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

寺院境內地處分審査會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ本法ニ規定スルモ
ノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム